

## 地域保健

[講義・実習] 第3学年 前後期 必修 3単位

《担当者名》専任教員/ 岡橋 智恵 / 大山 静江 / 千葉 利代 / 山形 摩紗 / 植木 沢美 / 梶 美奈子  
 歯学部/ 長澤 敏行 / 松岡 紘史 / 飯田 貴俊

## 【概要】

学習した歯科専門領域の基礎知識をあらゆる口腔の健康状態にある対象に適用し、科学的根拠に基づいて必要な歯科保健指導を実践できる能力を養う。

## 【学修目標】

対象を口腔の健康レベルから捉え、個別性に応じて必要な歯科衛生介入を判断し、計画的に実践する過程を習得できる。

対象の多様な価値観を認め、円滑な対人関係を築くことができる。

臨床における歯科保健指導および公衆衛生現場活動における歯科保健教育の実施に向け、対象の把握、対象別指導法、対話訓練等を実践できる。

1年生を対象に歯科衛生過程の実践ができる。

歯科医療現場における口腔咽頭吸引・排痰法について実践する。

摂食嚥下リハビリテーションについて理解する。

摂食嚥下機能の評価方法の実際を確認する。

障がい者（児）を対象とした歯科衛生士の対応について理解する。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	講義 地域保健 の予定について理解する。 1・3年生合同実習の概要について理解する。 ・一般目標 ・行動目標 ・実習日程 ・実践要領 ・記録の方法 ・記録の提出について	岡橋 智恵
2 ) 3	食生活指導	講義・演習 食生活指導に必要な情報をとることができる 健康を維持するための栄養情報を説明できる 食品と歯科疾患の関連性を説明できる う蝕予防のための食品摂取方法を説明できる 咀嚼の動きを説明できる 事例より食生活指導を行うことができる	山形 摩紗
4 ) 5	1～3年生う蝕リスク検査実習	講義 う蝕活動性試験の目的、種類を確認する。 う蝕活動性試験の方法を理解する。 実習時の注意事項を理解する。  実習 対象の1年生とコミュニケーションをとることができる。 う蝕活動性試験の目的を説明することができる。 対象にう蝕活動性試験を実施することができる。 う蝕活動性試験の判定をすることができる。 う蝕活動性試験の結果を基に患者指導ができる。 課題レポートを提出する。	岡橋 智恵
6 )	1・3年生合同実習(1)	実習 対象者に医療面接をすることができる。 対象者の口腔内観察をすることができる。	岡橋 智恵 大山 静江 千葉 利代

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
7		<p>歯・口腔に関する諸検査をすることができる。</p> <p>口腔内写真撮影をすることができる。</p> <p>口腔内写真を印刷することができる。</p> <p>歯垢の染出しをすることができる。</p> <p>対象者の口腔清掃方法を観察することができる。</p> <p>対象者にう蝕活動性試験の結果を説明することができる。</p> <p>対象者の口腔健康管理の問題点を抽出することができる。</p> <p>対象者の安全に配慮した行動ができる。</p>	山形 摩紗
8 ) 9	カンファレンス(1) 記録の整理(1)	<p>実習</p> <p>発表者は自分の対象のデータをまとめ、自分たちの考えを説明することができる。</p> <p>カンファレンスに参加し質問・意見を述べることができる。</p> <p>カンファレンスに参加しながら自分の対象と比較し分析を深めることができる。</p> <p>記録の整理</p> <p>対象者の情報から主観的情報、客観的情報を抽出することができる。</p> <p>収集した情報を歯科衛生ニーズに基づいて整理分類できる。</p> <p>情報の解釈・分析ができる。</p> <p>歯科衛生診断ができる。</p> <p>歯科衛生計画の立案ができる。</p> <p>対象者の経過記録をSOAP形式で記録することができる。</p>	岡橋 智恵
10 ) 11	1・3年生合同実習(2)	<p>実習</p> <p>対象者に対し歯科衛生計画に沿った歯科衛生介入ができる。</p> <p>対象者の口腔内観察ができる。</p> <p>口腔内写真を印刷することができる。</p> <p>歯・口腔に関する諸検査をすることができる。</p> <p>口腔内写真撮影をすることができる。</p> <p>情報不足部分の聞き取りができる。</p> <p>対象者に必要な口腔健康管理指導ができる。</p> <p>対象者の安全に配慮した行動ができる。</p>	岡橋 智恵 大山 静江 千葉 利代 山形 摩紗
12 ) 13	カンファレンス(2) 記録の整理(2)	<p>実習</p> <p>発表者は自分の対象のデータをまとめ、自分たちの考えを説明することができる。</p> <p>カンファレンスに参加し質問・意見を述べることができる。</p> <p>カンファレンスに参加しながら自分の対象と比較し分析を深めることができる。</p> <p>記録の整理</p> <p>染出しの記録、磨き方の記録、指導した記録を記入する。</p> <p>経過記録をSOAP形式で記録することができる。</p> <p>収集した情報を歯科衛生ニーズに基づいて整理する。</p> <p>長期目標、短期目標について評価することができる。</p> <p>評価の要因分析と課題を考えることができる。</p> <p>情報の解釈・分析、情報の統合の不足部分を抽出できる。</p> <p>歯科衛生計画の再立案をすることができる。</p>	岡橋 智恵

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
14 ) 15	1・3年生合同実習(3)	<p>演習</p> <p>対象者に対し歯科衛生計画に沿った歯科衛生介入ができる。</p> <p>対象者の口腔内観察ができる。</p> <p>口腔内写真を印刷することができる。</p> <p>歯・口腔に関する諸検査をすることができる。</p> <p>口腔内写真撮影をすることができる。</p> <p>情報不足部分の聞き取りができる。</p> <p>対象者に必要な口腔健康管理指導ができる。</p> <p>対象者の安全に配慮した行動ができる。</p>	岡橋 智恵 大山 静江 千葉 利代 山形 摩紗
16 ) 17	カンファレンス(3) 記録の整理(3)	<p>実習</p> <p>発表者は自分の対象のデータをまとめ、自分たちの考えを説明することができる。</p> <p>カンファレンスに参加し質問・意見を述べるができる。</p> <p>カンファレンスに参加しながら自分の対象と比較し分析を深めることができる。</p> <p>記録の整理</p> <p>染出しの記録、磨き方の記録、指導した記録を記入する。</p> <p>経過記録をSOAP形式で記録することができる。</p> <p>収集した情報を歯科衛生ニーズに基づいて整理する。</p> <p>長期目標、短期目標について評価することができる。</p> <p>評価の要因分析と課題を考えることができる。</p> <p>情報の解釈・分析、情報の統合の不足部分を抽出できる。</p> <p>歯科衛生計画の再立案をすることができる。</p>	岡橋 智恵
18 ) 19	1・3年生合同実習 まとめ	<p>グループワーク</p> <p>各自の指導結果をまとめグループにて発表する。</p> <p>歯科衛生過程の内容について討議する。</p>	岡橋 智恵
20 ) 23	札幌市保健センター総合オリエンテーション	<p>講義</p> <p>札幌市の地域保健行政を理解する。</p> <p>札幌市保健所の機構から、それぞれの係(健康推進、食育・栄養、母子保健、歯科保健、医療企画、薬事)の業務を学ぶ。</p> <p>保健所業務としての対人保健サービスの方法を学ぶ。</p> <p>保健所の業務が市民の生活全般に大きく係わることを理解する。</p> <p>歯科保健担当係が中心となる健康さっぽろ21の歯の健康を学ぶ。</p> <p>保健所の歯科衛生士が係わる健康診査や口腔衛生指導、口腔がん予防啓発事業を学ぶ。</p>	大山 静江
24 ) 25	行政における歯科衛生士の仕事(石狩市総合福祉センターでの活動)	<p>講義</p> <p>対象幼児の口腔の特徴を理解する。</p> <p>行政で実施される検診内容を学ぶ。</p> <p>対象となる幼児の年齢を想定し資料を作成する。</p>	大山 静江
26 ) 27	行政におけるフッ化物塗布実習(石狩市総合福祉センターでの事例を通して)	<p>相互実習</p> <p>石狩市で実施されるブラッシング方法を想定し相互で確認する。</p> <p>石狩市で行うフッ化物塗布集団応用を想定し、実施する。</p>	大山 静江

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		保護者を想定した指導を学ぶ。	
28 ) 30	医療コミュニケーション	演習 歯学部学生と模擬患者実習を行う。 認知行動療法を用いて演習を実践する。 患者中心の歯科医療を理解する。 歯科医療に必要な行動科学について実践する。	長澤 敏行 松岡 紘史 岡橋 智恵
31 ) 32	口腔咽頭吸引・排痰法	講義・演習 歯科医療現場における口腔咽頭吸引・排痰法について理解する。 口腔咽頭吸引・排痰法の実践ができる。	飯田 貴俊 岡橋 智恵
33 ) 35	摂食嚥下リハビリテーション	講義 摂食嚥下の仕組みとそれにかかわる障害について確認する 摂食嚥下リハビリテーションの効果について確認する。 摂食嚥下リハビリテーションの方法について確認する。 摂食嚥下障害がある人の口腔内の状態を理解する。 栄養補給方法について確認する。 食形態の調整と環境調整について理解する。 演習 摂食嚥下機能の評価方法を確認する。 摂食嚥下リハビリテーション方法を理解する。 口腔機能低下症を評価する際に使用される器具の取り扱いを理解する。	植木 沢美 岡橋 智恵
36 ) 38	障害児者への対応(講義・実習)	障害児者の一般的特徴について理解する。 障害児者の口腔の特徴について理解する。 障害児者の歯科的問題について理解する。 障害児者への対応方法について習得する。	梶 美奈子 岡橋 智恵

## 【授業実施形態】

## 面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

## 【評価方法】

- 1・3年生合同実習 25%  
 臨地実習「石狩市総合福祉センター」 25%  
 オリエンテーション「札幌市保健センター」 25%  
 多職種連携授業 25%

以上 上記における実習態度や提出物で総合的に判断する。

## 【教科書】

必要に応じて指示する。

## 【参考書】

- 「歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論」医歯薬出版  
 「歯科衛生学シリーズ 歯科衛生学総論」医歯薬出版  
 「歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第3版」医歯薬出版株式会社

## 【学修の準備】

- ・各施設での実習の際は実習場所、実習日、実習時間、持ち物等を確認しておく。
- ・学外実習にふさわしい身装に整えておく。

## [授業時間外学習]

予習：30分...1・3年生合同実習については、歯科衛生学 の分野を教本で確認しておくこと。

施設実習については各施設の特性や対象者の特徴について関連科目の教本及び資料で確認しておくこと。

復習：30分...1・3年生合同実習後は歯科衛生学の進め方に沿って、情報を分類・分析し、指導計画まで考える。

施設実習後は実施記録、考察・所感をレポートに記載しておく。

**【実務経験】**

岡橋智恵（歯科衛生士）、大山静江（歯科衛生士）、千葉利代（歯科衛生士）、山形摩紗（歯科衛生士）、植木沢美（歯科衛生士）、梶美奈子（歯科衛生士）  
飯田貴俊（歯科医師）、長澤 敏行（歯科医師）、松岡 紘史（公認心理士）

**【実務経験を活かした教育内容】**

臨床現場における経験を活かし、前半は1年生との合同実習において歯科衛生過程の実践をする。後半は保健センターにおける歯科衛生士の働き、総合福祉センターにおける歯科検診を見学し乳幼児の口腔清掃指導を実践する。また、歯学部をはじめとする他学部との多職種連携授業ではインストラクターとしてアドバイスをする。